

# 関西の女性活躍の課題分析について(第1回分析ワーキングチームのまとめ)

**趣旨：**府県域を超えた関西全体を対象とした課題分析を通じ、関西の実情に応じた効果的な取組を行うことが必要。

**目標：**女性の活躍に関する関西独自のKPIの設定。

**手法：**本年度は各府県の独自調査を参考に既存の統計データに基づいた分析を行う → 不足するデータについて次年度に独自調査を行う

## 問題意識 1：女性の活躍を測る指標は“就業率”だけで良いのか？

### ○島根県の独自KPI「働く女性きらめき指数（島根方式）」に学ぶべき点：

- ・女性の働きやすさや活躍については、職場だけでなく、家庭や地域・社会において、環境を整備することが必要となる。  
→「職場」「家庭」「地域・社会」の3カテゴリで項目設定、各データの偏差値を算出、比重調整して指数化

### ○主な議論：

- ・就業率だけを指標とし、その高い地域の施策を他地域が単に参考にすればよいというわけではない。  
→多面的な指標を設定し総合的に分析することが必要である。
- ・島根方式では、女性の活躍度を測る指標として、職場（正社員比率、管理職比率）と地域社会（ボランティア活動率）を設定しているが、家庭での設定がない。  
→正社員としての活躍だけではなく、社会貢献も活躍として評価されるべき。  
また、家庭は「働きやすさ」という環境条件（余暇時間など）だけでなく、活躍の場としての捉え方も考えたい（地域社会の活性化に寄与するのでは？）
- ・女性のデータだけではなく、すべての指標について、男女別のデータを分析すべき。  
→値の高低と男女のギャップの両面から活躍度を測定する。

## 分析の方法論（まとめ）：多面的な指標で総合的な分析

- ・島根方式を参考に職場・家庭・地域社会の3カテゴリで指標を設定。
- ・カテゴリごとに「環境条件（働きやすさ）」と「活躍度」を測る指標を検討。
- ・すべての項目で男女別のデータを比較する（活躍度を総合的に分析）。

・アウトカム「住み、働き、子育てしやすい関西（地域経済と社会の活性化）」を測る指標（例 GRPと人口）を設定し、各ブロック・各カテゴリのデータとの相関をみる

## 問題意識 2：府県単位の分析で良いのか？

### ○兵庫県「女性の就業に関する調査」に学ぶべき点：

- ・府県単位の平均値では特性が平準化される。市町村単位では施策対応として細かすぎる。  
→「播磨」程度のブロック感で地域特性を分析するのが適当。
- ・地域特性をみると、産業構造等（都市部住宅団地、農業、工場団地など）の影響が大きい。他にも、世帯収入、通勤時間、独身か有配偶者かの違い、などが影響

### ○主な議論：

- ・関西全体での分析をするのが“広域連合”的（府県単位の分析はしにくい）。しかし、全体を平準化してしまえば施策を検討できない。  
→各府県についてブロック別の特性を分析、いくつかのパターンに種別する。（都市地域、中間地域、農山村地域）
- ・東京都心は単身世帯が多く、日本でも特殊な都市域（ロンドンに似ている）。  
→活躍したい女性が東京に集まる理屈を知りたい（事業の新陳代謝が盛んで、職種による募集が多い印象あり→こうしたデータがあるか？）
- ・県域をまたいだ移動（通勤や通学）なども影響するのではないか。  
→地図上にプロットし関係をみる。

## 分析の方法論（まとめ）：パターン化により府県域を超えた分析

- ・各府県ともブロック単位（播磨地域程度）で地域特性を分析。
- ・似通った地域特性ごとに5パターン程度に種別し、対応する施策を検討。
- ・東京都心や福岡・名古屋など他エリアとも比較する。

**次回（第2回）予定：**7月6日（金）13時～15時 於：ナレッジキャピタル（予定）

**検討項目：**①3カテゴリごとの指標の検討、②まずは府県別のデータの確認（できればブロック単位のデータ、他エリアとの比較は努力目標→第3回に検討）